



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2022年11月28日 第1095号「週刊五十嵐レポート」

人を採用するとき

人を採用する時、大企業や有名企業には優秀な人が集まるが、中小企業にはなかなか優秀な人は来ない。故に教育をして育てていくしかない。それでも人を採用する時に、気をつけることが多々ある。

中小企業の場合、人の採用の多くは中途採用になる。同業の大手にいて部長職などを歴任した人を採用してみても思うような成果が上がらないケースが少なくない。中小企業の場合、オールラウンド・プレイヤーのように何でもやらないといけないのが、大手にいた人は、分業制がしっかりできているため、いろいろなことができる人や応用できる人が実は少ない。同業大手の役職経験者が必ずしも中小企業で戦力になるとは限らない。

大企業や有名企業でも理系学生を採用するのは困難と言われている。まして中小企業に理系の人は来ることは難しい。ITエンジニアでも同じ。中小企業にはなかなか集まらない。出身から選ぶのではなく、技術スキルはなくても人柄で選ぶ。技術スキルは会社に入ってからでも習得できる。どういう人を選ぶのか。

小さな運送会社が1人ドライバーを採用することになった。20代の人と50代の人 came。会社としては20代の人望ましいと考えていた。面接をしてみると、20代の方は消極的な人であると印象を受けたが50代の方は積極的な姿勢を感じ、更に本をよく読み勉強熱心であると受け取れた。最終的に50代の人を採用した。数か月が過ぎた現在、50代の方は期待通りの仕事ぶりをしており、いずれリーダー候補になると思われている。

物販をしている中小企業は、同業大手にいた人の採用をやめ、業界経験はなくても接客のセンスがあるかないかを見極めて採用を決めている。業界や商品知識は入ってから教えることができるが、人とコミュニケーションとれるか否かはすぐには教えられない。

仕事の実力は大きく2つある。業務遂行能力と人間関係能力。両方大事だが、あえて言えば、人間関係能力がウエイトが高い。ここの素質を見極め育てていく。中小企業は学歴や経験でないと見極める力が必要。

11月18日付日経新聞夕刊、「諸葛亮」より。

「孔子は、勇を好みて学を好まざれば、その蔽（へい）や乱（らん）、と言ったが、謀反を起こした者たちはみなそうである」。

論語では、

仁を好みて学を好まざれば、その蔽や愚。知を好みて学を好まざれば、その蔽や蕩（とう）。信を好みて学を好まざれば、その蔽や賊。直を好みて学を好まざれば、その蔽や絞（こう）。勇を好みて学を好まざれば、その蔽や乱。剛を好みて学を好まざれば、その蔽や狂。

仁を好んで学問を嫌がるとその害として情に溺れて愚かになる。知を好んで学問を嫌がると、その害として高遠に走ってとめどもなくなる。信を好んで学問を嫌がると、その害として妄信に陥って人を損なうことになる。直を好んで学問を嫌がると、その害として窮屈でゆとりがなくなる。勇を好んで学問を嫌がると、その害として乱暴になる。剛を好んで学問を嫌がると、その害としてとんでもないこととなる。

2500年前から学ぶことが大事であることを物語っている。不変の事なんだな。



一口メモ
知識

時の的を射る

君子は器を身に蔵（ぞう）し、時を待ちて動く。

「器」とは弓矢のことで、利器を意味する。これは世の中に役立つ力や才能、また問題を解決する手段の譬えである。

この言葉は、普段の修養により、力をたくわえ身につけておき、時が来たら行動するのが良いと教えている。

いくら良い利器を備え、行動力や才能があったとしても、時の的を外したら何事も成し遂げることはできない。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

榊五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL.03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

